

## 若山牧水の日記に見る読書記録

吉岡義信

若山牧水の歌集『みなかみ』に「萬葉集いにしへひとのかなしみに身も染まりつつ読む萬葉集」という歌がある。歌人としての牧水が『万葉集』をこよなく愛していたことを窺わせる一首である。牧水の読書についての記録は、日記の中に断片的に見えるが、特にこの稿では牧水が延岡中学校時代に記した明治35年（第4学年）から37年中学卒業までの日記から拾い出してみることにした。

ちなみに牧水は寮に寄宿していたが、第3学年の時に新校長が文芸物の読書を禁止したため、寮を出て同級生宅に寄寓し、自由に読書できるようになった。なお、本稿は『若山牧水全集』（増進会出版社1992・10－1993・12）による。原文は旧漢字を使用しているが、ここでは新漢字に改めることにした。

### 明治35年

- 4月10日 校ノ帰路、鈴木君宅ニテ「理想之学生」「墳墓」ヲ借ル
- 4月19日 河野君宅ニテ文芸界ヲ見ル
- 5月1日 鈴木君宅ニヨリテ青年観ふるさとヲ借ル
- 5月21日 夏虫（文芸倶楽部）を翠両子ヨリ借リテ読ム
- 6月7日 注文シ置キタル西、東両洋歴史問答来ル
- 6月14日 貸本屋ヨリ「螢火、水ノ魔術」ヲ借リ帰ル
- 7月30日 日高君へ八犬伝「義、礼、智」の三冊ヲ貸ス、
- 9月13日 英大文典、動物学ヲ買フ
- 9月19日 和歌辞典来ル、面白シ
- 9月20日 新声ナド読ム
- 9月26日 新声来ル、絵画大ニ美シ
- 9月27日 「海の日本」「新小説七号」「豊島嵐」ヲ借リテ読ム
- 9月28日 終日小説ナド読ミ暮ラス
- 10月2日 兼テ望ミシ、蘆花ノ「思ひ出の記」ヲ借リ来ル、十一時マデ読ム、尚ホ終エズ、ズイブン面白シ
- 10月3日 蘆花ノ「思ひ出の記」ヲ読ミ終フ、大ニ同情ヲ率ク点多ク、可憐ノ小説、読ンデ損ハナカルベシ
- 10月23日 北町ニ河野新三君ヲ訪フ、同君ヨリ、「アービング」ノ「スケッチブック」ヲ借ル
- 11月1日 大見二行キ文学界ヲ借リテ来テ遅クマデ読ム

### 明治36年

- 1月2日 八犬伝など見る
- 1月4日 泣菫のゆく春、藤村の一葉舟などを見る
- 1月8日 山崎君より永井荷風の「地獄の花」を借りて読む、なかなか面白き

- 書なり、せちからき浮世の浪にもまるゝ一処女を、描き出して甚だ妙！
- 1月12日 月舟君より「ハイネの詩」を借る、美しき書なり
- 1月26日 夜、種々、小説ナド読ミテ少シモ勉強セズ、脳ノ保養ナリ
- 2月5日 夕方ヨリ月舟方ニ出懸ケテ「春潮」(臨時増刊新声ノ)ヲ見ル
- 2月26日 大見君ヨリ鉄幹ノ「うもれ木」ヲ借ル、ザーツト目ヲ通シ、和歌数首ヲ抜ク
- 3月4日 大見ニ行キテ、小波ノ「春若丸」ヲ読ミテ喜ブ
- 4月16日 夜家ニ帰ツテ、徳富蘆花ノ黒潮ヲ読ンデ泣ク
- 6月6日 夕方興梶君ヲ訪フテ、小説を借リテ帰り、夜皆ニ読ンデ聞ス
- 7月5日 午マデハ忠臣蔵ヲ読ミ
- 7月27日 白梅より噫無常のコセットの巻、奇々怪々を送り来り、雨花からは愛らしき妻と文芸界とが参り居り候
- 7月28日 「愛らしき妻」を二頁程調べ候
- 7月29日 「愛らしき妻」一頁程をやりしのみ、怠りて勉めず。堀井君より通信世界文学の沙翁物語を贈らる。一葉全集を読む
- 7月30日 「愛らしき妻」を又一頁程
- 8月1日 八犬伝や、青年文や十五少年を手当り次第に読みあさり候、十五少年は堀井君の贈り給ひしもの
- 8月2日 十五少年や太陽小説など読み候、夜は真面目に The four-fifteen express (奇々怪々)を一頁余調べ候
- 8月3日 「奇々怪々」を一頁見る。八犬伝、乱れ髪などをも
- 8月4日 夜、「奇々怪々」を本文一頁、訳注全体を見申候。太平洋の古いのを引っ張り出して読み候
- 10月17日 「露伴叢書」など読む
- 10月25日 先生の国民新聞の古いのを見つけ出して眉山の「石巻庄右衛門」水蔭の「海底の宝庫」を見はじめ、なかなか面白うて昼からは家に閉ぢこもり候ふ
- 11月3日 春雨の「姫小松」荷風の「すみだ川」を読む、共に大分にて求めし文芸界にあるなり
- 11月8日 修進堂の支店で「近松浄瑠璃」をもとむ
- 12月9日 「山比古」といふ雑誌を見る、面白し
- 12月11日 夜国文と一九の膝栗毛など読む
- 明治37年
- 1月19日 新年の「文芸界」をかりて見る、柳浪、風葉、秋声のなど、皆それぞれなり

牧水は中学時代から各種の雑誌に投稿しているが、歌人としての牧水のいわば素地が築かれた中学時代に、どのような本を読んでいたか興味深いものがある。